

あっという間に1学期も終わろうとしています。新学年がスタートして大分その雰囲気はこなれてきました。そのような状況を教頭の見線からお伝えしようと思います。

◆◆◆ 1年生 ◆◆◆

近年の本校では珍しく、女子よりも男子が多い学年として出発しました。男子、女子と粋をはめるつもりはありませんが、男子が多いことによる騒がしさも事実あって、4月以降今に至るまで廊下にも、職員室にも教室の喧騒が届いています。

何よりも記憶に残っているものといえば、3月25日新入生登校日の学年主任のコメントです。「お弁当をにぎやかに食べている！グループになって！」というもの。この登校日は、新入生初の顔合わせということもあって、通常、教室が緊張感に満ちているのですが、この学年は違いました。前を向いて黙々と食べているクラスもありましたが、数クラスはわいわいがやがやとしており、その様子を見ていた教員陣はみな口をそろえて今年の1年生はくだけているねと話していました。先に述べた通り、休憩時間もとても賑やかであり、いったい教室で何が起きているのだろうと思うほど笑い声が聞こえていましたが、その状況がさらに深刻、もとい…進んだのは5月下旬のHR合宿後でした。

HR合宿の中日において、本校ではチームビルディングを実施しているのですが、それは元来、打ち解け切れていない、ぎこちないクラスの空気を柔らかくしようという意図もあるのです。しかし、この学年に関してはもともと柔らかかったものが（盛り気味に話せば）、アメーバ状になったかのようです。いつもの感じだと、仲が良いとは言え、この時期のあるあるとして、男子と女子とでコミュニケーションがぎこちないところが少なからずあるものです。それが、このアクティビティのおかげで仲良くなり、一層クラスの親和性が高まったようです。

私も含めて本校の教員は、HR合宿、夏休みが節目と思っていて、この一つ一つを超えるごとに中学生の面影が消え、中大高の顔つきになっていきます。例えば、高校デビューに伴うちょっとした尖りも丸くなっていきますし、教頭という看板を背負っている私に対する警戒心も薄れていきますが、今年はこなれすぎた？感がありました。これからが楽しみでもあり、ちょっとおっかないと思うところもあるのが正直なところです。

とはいえ、笑い声が起きる教室は、教員にとって一番の安心材料です。高校初の夏休み…当たり前ですが、中学とも違うちょっと背伸びできる休み、大学生とも違って少々タイトな休み、この絶妙なバランスの上に成り立っている長期休業（でも結構忙しい）明けに、どのような顔を見せてくれるのか今から楽しみでもあります。

そうした時期だからこそ、保護者の皆様には、何か気になることがありましたなら、早めに担任までお知らせください。

◆◆◆ 2年生 ◆◆◆

どこでも言われることですが、2年生は「学校の顔」です。附属校ではあっても3年生にもなると進学を意識しますし、上級生がいないということから貫禄が出てきます。でも2年生はようやく慣れた学校に、後輩が出来、先輩であることを意識させられると同時にまだまだ先輩もいる、といった挟まれた状況に置かれます。文化祭の運営主体はこの学年、部活も3年が引退していきますからこちらも頑張らなければならない…こうした負荷がかかる中で、学校生活を送るわけです。さらに本校独自の事情をいえば、理系の授業が増え、勉強における負担感も大きくなります。中大推薦への意識も高まり、プレッシャーも徐々に大きくなります。そして人間関係も成熟するとともに変化していきますから、多感な時期の子供たちにとって高2はなかなか大変なのです。

この時期、生徒が荒れないように指導出来ているかどうか、その学校の器量が問われることから「顔」と呼ばれるのです。

前置きが長くなりましたが、その2年生。この学年は今の1年生とは異なり、もともと落ち着いた感じがありました。消極的といったネガティブなものではなく、シャイな感じが強めなのでしょうか。本当に学年からにじみ出る色は毎年様々で面白いものです。

1年生のところでも触れたHR合宿でのチームビルディングです。私は2学年両方を見ていたのですが、1年生ははしゃぐことが多く、なかなか上手くいかなかった課題を2年生は落ち着いて議論しつつクリアしていました。とはいえ、その2年生も昨年は幼い部分が見えて上手く解決出来ていなかった記憶があり、この成長には目を瞞るばかりです（1年生の皆さんは、来年に期待！）。ちなみに、中大高生としての進化、深化を感じるものの一つに私への対応があげられます。私が休憩時間の度に、教室をうろうろするのですが、2年生にもなると、その対応が慣れたものになり、私が絡んでもうまくかわされてしまいます。中にはあきれ顔をしている生徒も見受けられ、教師としてのレジリエンスが高まる機会となっています。

文化祭実行委員長は2年生です。学校は本格的に9月の文化祭に向けて動き始めました。この学年が中心となってどのような後楽祭を作ってくれるのか、今から楽しみにしています。

◆◆◆ 3年生 ◆◆◆

当たり前なのですが、3年生は迎える行事すべてが高校最後となる学年です。今はまだ卒業の雰囲気も感じる状況にないことから、最後、最後という感じはないのですが、着々と高校の終わりに向かって進んでいます。3年を受け持つ教員にとって、終わりをうまく意識させていくことが課題です。それは卒業した時点での満足感につながっていくものではあるのですが、なかなか思うようにはいきません。というのも高校時代を経験した大人の方が過度にノスタルジックに捉えているため、その意識を見透かされているからかもしれません。私なども、時々3号館の教室の様子をうかがいに行くのですが、楽しそうに過ごす姿（1、2年生とは違う落ち着いた雰囲気）を見る度に、この子たちと過ごす時間も少なくなった…と感傷的になることも多いこの頃です。

さて、そんな大人の勝手な感慨とは無縁なところで時間はあっという間に過ぎていきます。クラブ活動を続けてきた運動部の生徒にとって1学期は引退ラッシュの時期です。部活が当たり前であ

ったものが、そうではなくなるわけですから、その穴は結構大きいものがあります。そこに加えて、中大推薦、他大学受験への動きが本格化、生徒たちは、いやがうえにでも自分の3年間と向き合う状況、その現実に向き合います。

そうした中だからこそ、行事の重みが出てきます。まずは修学旅行、去年の沖縄・石垣と真逆の北海道でした。天候にもまずまず恵まれ、ホテルや食事、アクティビティもすべてよく、全行程にわたって楽しかったようでした。何よりも事故や大きなトラブルもなく帰京できたこと、これが一番です。それが終わった今は、文化祭のクラス企画や体育祭の応援団、各種競技への準備となっています。

応援団に関して言えば、つい先日、団長を中心とする3年生団員が1、2年生の教室へ勧誘に行っていました。恒例行事なのですが、毎年見ている教員からするとそのプレゼンには興味深々です。団長の個性により、笑いが起きるものもあれば、真面目な話のものもあります。つくづく思うのはこうした紹介の場も貴重な勉強であるということです。40人の後輩たちの前で、いかに自分たちの団が魅力的あるかを伝え、入部へのインセンティブを掻き立てることが出来るのか、話術一つで変わってくるからです。

話が少々それますが、こうした経験は対面でこそそのものであり、AI相手では決して得られない貴重な機会であると思います。もちろんAIは便利なツールであり、上手く活用していくことが求められますが、いくら技術が進歩しようとして究極的には「人」次第であると思えば、学校として大事にしなければならぬのは、こうした経験の積み重ねではないかと考えます。

7月に入り、梅雨明けに向けてのカウントダウンも始まったと思われます。梅雨明けの後は、本格的な暑さがやってきます。実り多き夏休みとなり、さらに成長した姿を見られるよう中大高教職員一同、楽しみにしています。